

大分市地域まちづくりビジョン

佐賀関地域まちづくりビジョン フォローアップ会議 通信 第5号

発行：令和6年3月1日 佐賀関地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、平成30年7月に市長に提言されました。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政が一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、取組状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

令和5年度
佐賀関地域まちづくりビジョンフォローアップ会議

■令和5年11月24日(金)14:00～
■佐賀関公民館 集会室



フォローアップ会議の様子

■地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況及び意見交換会の内容(抜粋)

●【提言1】人が集まる観光振興対策

【事業の取組状況】

《市》
令和4年度に関崎遊歩道の整備を行い、令和5年度にリニューアルオープンした「JX 金属関崎みらい海星館」との一体的なエリアの魅力増進を図っています。また、全国で公開される映画の誘致に成功し、佐賀関地区が作品の舞台の一部として撮影され、その後ロケ地の紹介、観光スポットや大分市のグルメ、撮影秘話等を掲載した「大分市ロケ地ガイド」を作成し、ロケツーリズムとして観光振興につなげています。



平成29年度から旧大志生木小学校にて、地域とアーティストが連携したアートイベント「開校！大志生木こどもアート学校」を継続して開催しており、アトリエを利用している6名のアーティストと地域住民の協力により地域の賑わいの創出を図っています。

大分市では、地元でとれた農林水産物等を活用した、商品開発などを支援する「おおいの幸」ブランド化支援事業を平成23年度より実施しています。令和4年度は「関ぶり」を活用した「関ぶりのコンフィ」が商品開発され、おんせん県おおいオンラインショップ等で販売しています。
【右ページに続きます】

《地域・個人》

- 地域の魅力や課題を探り、まちなか流木アートで地域活性化を図っています。令和5年度に流木アートの作品を佐賀関支所などに展示を行います。(大分商工会議所佐賀関支店・日本文理大学)
- 大分市佐賀関が全国に誇る「関もの」を発信するため、「関さば&関ぶりフェア」を実施しています。(大分商工会議所)
- 海星館がリニューアルされ、名称も「JX 金属関崎みらい海星館」となり、JX 金属関崎みらい海星館と美しい海岸線コースをガイドブックにしています。(さかのせきボランティアガイド協会)
- こうざき海岸清掃を神崎小中学校全校生徒と地域住民で実施しています。(神崎小中学校)
- 生徒会を中心に2週間に1回、あいさつ運動と併せて国道沿いの早朝ゴミ拾いを行っています。(佐賀関中学校)
- 「こうざき SNS 発信」を立ち上げNPO 法人や神崎校区まちづくり協議会の活動を紹介しています。(NPO 法人福祉コミュニティKOUZAKI)

●【提言2】コミュニティの維持・活性化

【事業の取組状況】

- 《市》佐賀関支所、佐賀関公民館共同で実施している「地域リーダー養成講座」の中で災害時における助け合い体制を構築する演習等を実施しています。
- 地域まちづくり活性化事業である「関崎シーサイドウォーキング」は、令和4年度は参加募集人数の縮小や受付におけるアクリルパーテーションの設置、検温の徹底など、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで実施し、地域の活性化に努めています。



《地域・個人》

- 日本文理大学と連携し、高齢者などに対して「スマートフォン教室」を月1回実施しています。(社会医療法人 関愛会)
- 地域福祉マップをリニューアルし高齢者が安心して暮らせる環境づくりを行っています。令和5年4月より利用者の利便性向上のため、佐賀関市民センターに移転しています。(佐賀関・神崎地域包括支援センター)
- コロナ禍が明け、老若男女が参加する「コガネグモ相撲選手権」や「ふるさと祭り」などを開催しています。(木佐上コミュニティ)



●【提言3】便利で快適なまちづくり

【事業の取組状況】

《市》令和3年度より佐賀関支所を基点として国道九四フェリー、佐賀関病院、関あじ・関さば館等を結ぶ循環型のルートで低速電動バス(グリーンスローモビリティ)の実験運行を行っており、令和5年度より本格運行へ移行しました。令和5年10月より曜日限定し「古宮地区・幸の浦地区」まで延伸したルートを運行しています。



【会議の中で出された意見・要望】

グリーンスローモビリティが佐賀関に入ってきて地域の方々は大変助かっていると思うが、海星館はバスが走っていないので、観光面で週の何回か運行してほしい。
⇒《市》令和5年度は、7月26日～9月27日の毎週水曜日に海星館ルートの臨時運行を行いました。地域活性化の面において、効果的であると思われませんが、現在の運行ルートは多い日には130名を超える状況です。運行ルートに関しては、引き続き現在の運行ルートを基本に地域の皆様の意見を伺いながら検討したいと考えています。

●提言1～3の複数に関するもの

(事業名) さまざまな地域資源を生かした人が集まるまちづくり
【事業の取組状況】

《市》 関崎海星館は施設の長寿命化改修と併せて魅力を高める整備を進め、本市で初となる最新式のデジタルプラネタリウムの新設、天体観測室の天体望遠鏡をこれまでの60cmから県内最大(九州で2番目)の大きさとなる83cmのものに更新し、より鮮明に観察できるようになっています。また、展示ブースには新たな展示装置を設置し体感・体験学習ができるようになるなど様々な魅力を備えた施設として、令和5年7月にリニューアルオープンしています。



JX金属 関崎みらい海星館

【会議の中で出された意見・要望】

・ 関崎海星館がリニューアルされ、名称も「JX金属 関崎みらい海星館」となり、素晴らしい施設となっています。また、眼下の真っ白にリニューアルされた関崎灯台があるので、一気に観光スポットとなったが、道路の両側は草や木が生い茂っていて、他の景色が見えない所があるので、せっかく良い施設ができたので道路も一緒に改善していただければもっと利用していただけたと思います。
⇒ 《市》 佐賀関循環線は県道であるため大分県の管理となっており、これまで道路整備についてお願いはしています。雨の時期や秋のシーズンは側溝も隠れて危なくなる事もありますので、清掃及び伐採、剪定などについても大分県に働きかけを行っています。少しでも気持ち良く、安全に利用していただけるよう、引き続き市から働きかけを行います。

【委員より事前に提出された意見・要望】(抜粋)

・ 峠道のような歴史的文化的遺産の保存を大分市としてどのように考えているのか。(佐賀関龍馬街道「有屋峠」、「虎御前峠」、「篠生峠」)
⇒ 《市》 大分市では、令和6年度から「文化財保存活用地域計画」の策定にむけて、全市域を対象に歴史的文化的遺産の把握調査を実施する予定です。この調査において本市の歴史文化財の特徴を把握するなかで、ご質問の峠道についても歴史的文化的遺産の価値を総合的に判断し、その結果を踏まえて検討してまいりたいと考えております。

・ JR幸崎駅の電車と大分バスとの時刻のすり合わせを本気で取り組む必要がある。
⇒ 《市》 JRは、大分駅方面に38便、臼杵駅方面に27便、路線バスは、平日、佐賀関と市内中心部の間で17往復されています。
運行便数の違いから、すべての便で乗り継ぎはできませんが、時刻表上、乗り継ぎの待ち時間は、概ね数分から20分程度となっています。
実際は、国道197号線等の渋滞の影響を受け、時刻表のとおり乗り継ぎができない場合もありますが、令和16年完成予定の国道197号線鶴崎拡幅道路改良事業が進展し、車の通行がスムーズになることで、バスの運行も改善されることが期待されます。
本市では、引き続き、交通事業者に対して、電車とバスの乗り継ぎの利便性について、出来る限り対応していただくようお願いしてまいります。

「佐賀関地域まちづくりビジョン」とは

急速な少子高齢化が進む中、大分市においても今後人口が減少することが予想され、地域住民同士の支えあいや交流が少なくなるなど、さまざまな課題が懸念されています。これらの課題を解決するためには、行政が地域の実情や意向などを的確に把握し、市政への反映に努めることが必要と考えております。

このような状況を受け、地域の活力維持・増進を図ることを目的として、市内13地域において、各地域の代表者等で作る「地域ビジョン会議」を設置し、その中でそれぞれの地域の現状と課題などを議論し、地域のまちづくりを進めるうえで目指すべき将来像として「佐賀関地域まちづくりビジョン」を策定しました。

【佐賀関地域の対象校区】

佐賀関地域まちづくりビジョンは、本神崎・木佐上・大志生木・関・一尺屋の5校区を対象としています。

【佐賀関まちづくりビジョンの将来像】

来て良し 住んで良し 美しい佐賀関

【これからのまちづくりに向けた市長への提言】

提言1：人が集まる観光振興対策

本地域は豊かな自然から生まれた海の幸・山の幸、海水浴場、観光スポット、市外の方も楽しめる地域伝統行事など、観光資源が多くあります。

地域資源をより有効に活用するため、分かりやすい情報の発信や、観光客が来たくするような拠点・仕組みづくりが求められます。

提言2：コミュニティの維持・活性化

都市部と比較すると、住民同士の関係が密接で、行事などの住民交流、高齢者の見守りや災害時の助け合い体制が構築されています。

このような体制を維持していくために、次世代を担う若者も交えた地域交流を促進し、コミュニティを活性化させる取組が必要です。

提言3：便利で快適なまちづくり

本地域は自然環境が豊かな一方、住宅や交通の便が少ないことや買物・娯楽施設の不足、農作物への有害鳥獣被害などの弊害があります。

美しい自然環境を保持しながらも、生活の利便性を向上するための基盤整備や支援を望みます。